

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700046		
法人名	株式会社 ケー・エス・メディカル		
事業所名	グループホーム そよかぜ		
所在地	神戸市須磨区北落合2丁目1-31		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成27年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の施設であり、地域との距離も近い。 ・個々の生活のペースを尊重し、生活スタイルに合わせたケアを心がけている。 ・ひとりひとりの入居者に向き合い、対応する姿勢を職員が持っている。 ・日用品から嗜好品、外出先の希望まで個々の様々なニーズに対応できる柔軟さがある。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣に公園・スーパー・文化センター等日常生活に便利な立地に恵まれた、外観に落ち着いた和風の雰囲気のあるグループホームである。利用者一人ひとりの尊重を理念に掲げ、家庭的な和やかな雰囲気の中で個々の生活ペースで過ごせるよう支援に努めている。職員はミーティング・各委員会活動の中で意見・提案を出し合い、業務改善委員会でも検討し、サービスの向上に努めている。運営推進会議には複数の家族の出席があり、一人ずつ意見を聞き、また、家族来訪時には、職員から利用者の近況を伝え、家族が意見・要望等を表しやすいよう努めている。系列事業所との合同行事・日帰り旅行・お誕生会などのイベント等、共に楽しむ時間が持てるように取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアの職員、施設長、事務が集まり朝礼を行なう際に全員で理念の唱和を実施している。また、理念を玄関口に掲げている。	『一人ひとりの「物語」を大切に捉え、“ふれあい”を深め、育み、“笑顔”あふれる時間を共に過ごしていきます』を法人共通の理念とし掲げている。玄関に掲示し、名札の裏面に印刷し、朝礼時に全員で唱和して、常に目や耳に触れ意識付けができるように取り組んでいる。アセスメントに基づいて個別性のあるプランで支援する等、理念の実践に努めている。	法人理念を基に、地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ事業所独自の理念を作り上げることが望まれる。現行の月間目標に反映させるなど、理念を実践につなげる具体的な取り組みを職員参画の下で継続的に行うことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物の際には利用者様と同行して近隣のスーパーを利用し、たこ焼き屋の店員と顔なじみになって話をするなど交流を深めている。	利用者と共に買い物に出かけ、地域のスーパーや喫茶店を利用している。近くの公園で催され保育園の運動会の見学に出かけたり、隣接する文化センターの展示や催しを見に行くこともある。近くの系列グループホームでの秋祭りに利用者と共に参加し、利用者や地域住民と交流している。地域包括支援センターと連携し、キャラバンメイトの講師として認知症サーポーター研修に参加し、地域で必要とされる役割を担っている。	今後とも、事業所が地域の一員として地域交流・地域貢献に努め、利用者が地域とつながりながら暮らしが継続できるように取り組むことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋には、ゼフィール白川と合同で秋祭りを開催して地域との交流を深めるようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の割合で開催し、利用者・安心すこやかセンター・北須磨支所の保健福祉課の方も参加している。最初に行事等報告してからリーダーが日常生活のことを報告し、ご家族からの意見を聞いてその意見を活かせるように努めている。	2か月に1回、利用者・家族代表・地域包括支援センター職員、時には区職員等が参加して、運営推進会議を開催している。地域代表者・知見者にも要請しているが、参加には至っていない。会議では利用者の状況・事業所の取り組み・ヒヤリハット事例等の報告を行い、参加者と意見・情報交換している。利用者・家族から意見を聞いたり、地域包括支援センター職員から地域の感染症情報を得るなど、そこでの意見・提案等をサービスの向上に活かしている。全家族に運営推進会議の案内を出し、議事録も全家族に郵送して内容を報告している。	より多くの意見を把握し、サービスの向上に活かすために、引き続き地域代表者や知見者への参加を呼びかけることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、北須磨支所の保健福祉課の職員に参加していただき、そよかぜをご理解していただけるよう努め、不参加の場合も議事録を送付している。	地域包括支援センター職員や区職員の運営推進会議への参加を通して、事業所の状況や取り組みを伝え、情報や助言を得ている。「すまグループホーム連絡会」「リーダー会議」に市の職員も参加しており、情報交換を行っている。また、事務手続きや法令解釈等に質問があれば、市の担当窓口にお問い合わせしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束についての勉強会を開き、職員全員がそれに1度は参加するようにしている。	教育委員会が年間研修計画を立て、「身体拘束・高齢者虐待」については、今年度は2回勉強会を計画している。1回実施されており、年度内にもう1回実施する予定である。また「身体拘束廃止・虐待防止委員会」が随時開催され、具体的事例を基に話し合い不適切ケアがないか確認し合っている。身体拘束は行わない方針を家族にも説明し、見守り強化やベッド位置の検討等で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。エレベーターは自由に使用できるが、玄関は立地条件や安全面に配慮し施錠しており、利用者の外出希望や気配を感じた時はさりげなく同行するよう努めている。	「身体拘束廃止」「虐待防止」「権利擁護」「人権尊重・プライバシー保護」等、必要な項目については、定期的・継続的に研修等を行い、職員が学ぶ機会を確保することが望まれる。また、各研修について、研修報告書(実施日・参加者・内容が確認できる記録)の作成と資料の添付が望まれる。
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待についての勉強会を開き、職員全員がそれに1度は参加するようにしている。	上記と同様の方法で、勉強会や委員会で高齢者虐待防止について学んだり検討する機会を設けている。マスコミ報道があれば、カンファレンスで取り上げて検討している。管理者は、職員への日々の声かけを心がけると共に、シフト調整に配慮し、疲労やストレスが利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。入浴時・更衣時等の身体状況に留意し、自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が市の集団指導に出席し、配布された資料の情報を職員が閲覧できるように配慮している。	管理者が市の集団指導に出席した配布資料を職員が閲覧できるよう設置しているが、勉強会の実施には至っていない。現在制度を活用している利用者はいないが、活用が必要と思われる利用者があれば、施設長が窓口となり支援できる体制がある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の中を見学していただいて、施設のことを管理者が説明するなどして内容をご理解していただいたうえで契約を行っている。	見学時に、パンフレットを用いて「できる事」「できない事」等サービス内容の概要を説明している。契約書・重要事項説明書は持ち帰って目を通してもらってから契約することになっている。契約時には、管理者が契約書・重要事項説明書等を用いて質疑応答を交えて説明を行い、利用料金については介護度に沿ってシュミレーションを行い概算を提示している。契約内容を改訂するときは、電話と運営推進会議で説明した後、改定内容を説明した文書を郵送している。入院・他施設入所等で解約の場合は、家族や病院・施設等へ必要な情報を提供し、円滑に移行できるように支援している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族に参加いただき、意見を聞く機会を設けている。意見があれば、管理者やケアマネに報告してからカンファレンスやミーティング時に職員同士で話し合いをして共有している。	運営推進会議には複数の家族の出席があり、一人ずつ意見を聞いている。家族来訪時には、職員から利用者の近況を伝え、家族が意見・要望等を表しやすいよう努めている。家族から出された意見や要望は、ケース担当職員が管理者やケアマネジャーに報告し、「介護日誌」や「申し送り票」で共有したり、内容に応じてはミーティング等で検討している。面会時間の調整など、出された意見・提案を運営に反映させている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見が出ればミーティングを開き、話し合った内容を管理者に報告相談するようにしている。	管理者は、日々の業務の中や月に1回開催のミーティング・随時開催の各委員会活動の中で、職員の意見・提案の把握に努めている。意見・提案は、内容に応じて、申し送り票で共有し、ミーティングで検討したり、業務改善委員会で取り上げる等、迅速に対応できるように取り組んでいる。施設長から、事業所職員の意見などをグループホームの統括責任者に伝える機会もある。入浴介助の業務分担等、職員からの意見・提案を運営に反映させている。法人内の職員の異動は基本的には行わず、利用者との馴染みの関係に配慮し、フロア一間の異動も最小限にとどめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトの希望は回数を制限して希望を出し、競合があれば職員同士で話し合っていて決めている。 経験や資格を問わずリーダー代行として取り上げるなどキャリアアップの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を開いている。また、職員が認知症介護実践研修と実践リーダー研修に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すまグループホーム連絡会と、リーダー会議に参加し、他の施設との情報交換をしている。施設での認知症実践研修の受け入れを行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が、何を望まれているか伺い、また情報収集し、ケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご意見や、ご要望を聞き取り、ケアに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居事前面接表を使って情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり畳んだり、食器洗いをしていただいたりと、その方に適した役割を持っていただき関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事など、家族様が参加できるように企画したり、受診の際には職員が送迎をし、ご家族様に付き添っていただき、一緒に本人を支え合える関係を築いている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族様に、施設での様子をアルバムにして送ったり、プレゼントやはがきが送られてきたらご家族様の了解を得てご本人にお渡ししている。	入居時には、家族記入の「入居前事前面接調査票」で馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。入居後に把握した情報は、「介護記録」に記録して職員間で共有している。友人や教会関係者の来訪があった場合は、ゆっくりと過ごせるように支援している。馴染みの理美容院・喫茶店に同行する等、馴染みの場所との関係継続の支援にも努めている。	今後とも、利用者の馴染みの人や場所についての情報収集に努め、大切にしてきた関係が継続できるように個別支援に取り組まれることが望まれる。
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく利用者同士の関係を深めるため、座席配置を気の合う利用者同士隣に座っていただく工夫をしている。孤立しないよう話しかけたり、人の輪の中にはいれるよう支援するよう努めている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居された場合、その施設へ様子を見に伺ったりしている。また、介護サマリーで情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食のメニュー、お誕生日会昼食、選択メニュー、入浴、外出等ご本人の希望の聞き取り、思い、これまでの馴染みの暮らしに沿ったケアの提供を心がけている。	入居時には、家族記入の「入居前事前面接調査票」で利用者・家族の思いや意向の把握に努めている。入居後に把握した思いや意向については、「介護記録」に記録して職員間で共有している。意思の疎通が難しい利用者は、家族の意見を参考にしたり、日々の関わりの中で観察し表情・反応等から汲み取れるように努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接調査票やケース担当職員を決める等、ご本人の生活歴、暮らし方、生活環境等、ご家族様からの聞き取りを含め情報収集に努め、日々のケアに生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式24時間シートの活用、日常生活における心身の状態の変化、能力の把握に努め、適時、カンファレンスを開催している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当職員が中心となり、ご家族様のご意見、要望の聞き取り、カンファレンス等での他職員の意見も取り入れ、必要に応じてセンター方式の活用も含め現状に合った介護計画の作成に努めている。	本人・家族の意向・要望を確認し、職員の気づきや意見を集約し、基本的には3ヶ月毎に具体的なサービス内容を取り入れた介護計画を作成している。適宜、主治医や看護師の意見も取り入れている。介護計画書をファイリングし、職員が常に計画の内容を確認できるよう工夫している。利用者の状況や家族の意向等が変化した時は、随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	計画に基づいたサービスの実施状況が把握でき、評価の根拠となるような記録の工夫が望まれる。居宅サービス計画書の見直しの際には、計画の評価・再アセスメントを行い、サービス担当者会議で話し合うことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日24時間の個別の様子や健康面等の記録をし、こまめに状態の変化にも目を配り、カンファレンス等で情報の共有に努め、介護計画の見直し、ケアの方向性に活かせるよう努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様のご要望で、職員が衣類等の購入をし、場合によってはご本人様と買い物に出かけ外出の機会をもうけ、選択していただけるよう自己決定を尊重し、個々に合わせた柔軟な対応を心がけている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣図書館、文化センター、近隣店舗、地域資源をできるだけ活用するよう努めている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のご希望を把握し、かかりつけ医の選択、継続で安心して受診していただけるように努めている。	契約時に利用者・家族の意向を確認し、希望の医療機関で受診できるように支援している。2週間に1回の内科の往診、1週間に1回の歯科医の往診、訪問看護が受けられる体制がある。往診医以外の受診時は基本的には家族が同行することとしているが、医療機関への説明等のため職員が同行することもある。薬の説明書・バイタル表等で医療機関に情報提供を行い、受診結果については介護記録とカードックスに記録している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間連絡体制を築き、個々の情報を共有できるよう体制を整えている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員がお見舞いに伺ったり、病院関係者やご家族様との連絡を密に取り、情報の共有化と連携体制作りを図り、早期退院につながるようにしている。	利用者の入院時には、事業所からは「介護サマリー」等で医療機関に情報を提供している。入院時には見舞いに行き、病院関係者と早期退院に向けた話し合いや情報交換を行っている。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の事業所での支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階でご本人及びご家族様のご意見をご希望をお伺いし、必要に応じて医師、看護師、介護職員、ケアマネ、ご家族様を交えたカンファレンスを開催し、安心して終末期を迎えられるようにチームケアに取り組んでいる。	契約時に「重度化・終末期対応指針」を用いて、重度化や終末期に向けた事業所の方針の説明を行い同意を得ている。重度化が進んだ段階で、かかりつけ医・家族を交えて繰り返し話し合い、方針を共有しながら家族・職員・かかりつけ医・訪問看護師等で支援に取り組む仕組みがある。1年に1回、さらに看取りが必要になった場合など随時、「意向確認書」で看取りについての家族の意向を定期的に確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の仕方について勉強会を定期的で開催し、全ての職員が適切かつ迅速に対応できるよう備えている。また、マニュアル化し、目の届くところに掲示している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練の実施に伴い災害時における全利用者様の誘導の手順等の方法を全職員が取得に努め、実施の際は事前に近隣住民に連絡つたえ、できるかぎりの協力体制作りに努めている。	27年度は7月・11月に昼・夜間想定で火災時の避難誘導訓練の実施を企画書で確認した。食糧等を系列グループホームに共同備蓄しているが、事業所内での備蓄を準備中である。。	火災や災害時に全ての職員が利用者を避難誘導できる方法を周知し実行できるような、実践的な訓練の実施が望まれる。実施後には報告書を作成し、参加できなかった職員も共有するとともに、評価を行い課題解決に取り組むことが望まれる。また、機会あるごとに避難経路や役割分担の再確認等を話し合うことを期待する。運営推進会議等で地域の協力を依頼し、計画通り備蓄を事業所で行うことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を把握しその人にあった声掛けの仕方や接し方に気を配ることができている。	一人一人の尊重を、「一人ひとりの物語を大切に」という理念に明文化し、生活歴を尊重し役割を持ってもらい感謝を表す等、実践に取り組んでいる。利用者の誇りやプライドを損ねる言葉かけや対応に留意し、気がきがあれば施設長から注意したり、お互いに注意し合えるよう努めている。記録類は、事務所の鍵のかかる保管庫に保管し、個人情報の適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話に傾聴し、なるべく希望にお応えできるように努めている。また、昼食では選択メニューがあり、利用者を選んで頂いている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かいタイムスケジュールはなく利用者の自由な時間が多い。ただし、食事や睡眠時間等にはしっかり配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容の利用、髭剃り、爪切り等は随時行っている。服は毎日洗濯をして朝にはきれいな状態の服を着て頂けている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自身のペースでゆっくり時間をかけて召し上がって頂けている。誕生日には利用者の好きな食べ物をお出ししている。	朝食は事業所で用意し、昼・夕食とおやつは委託業者から調理したものが届けられる。「食事要望ノート」を各フロアに置いて利用者の感想や希望を集約し、法人の給食会議で伝え、献立に反映させる仕組みがある。アレルギーや嗜好で食べられない時は、代替え食で対応している。イベント時や誕生日の特別メニュー・おやつの手作り・外食等の機会を設け、食事がより楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分摂取量を継続して記録に残している。ムセが見られ水分が取り難い利用者にはトロミをつける等して飲みやすいように工夫している。1日を通して食事が極端に少ない利用者は、医師に報告しラコールを飲んで頂いている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの出来る範囲での口腔ケアの支援が行えている。自身でほとんどできる利用者には声掛けのみ行い、歯磨きができない利用者でもうがいほできたりするので、できない所は職員が介助し、できる所は声掛けのみ行っている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導を行うことで、なるべくトイレで排泄することができている。利用者が傾眠されていたり具合が悪い時は無理をせずベットに臥床して頂きパット交換を行っている。	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行いトイレでの排泄を支援している。声掛けや職員間の伝達時は、プライバシーに配慮している。異性介助を嫌がる利用者には、同性で対応している。介助方法を検討し、おむつ類への安易な移行を行わないように取り組んでいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトとヤクルトをお出ししている。便秘気味の際はお腹をマッサージして排便しやすいように努めている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂当番だけに入浴を任せるのではなく、職員同士で協力し合っ、利用者が安んかつ安全に入浴できるよう努めている。	入浴は基本的には週2回、午前と午後に分け、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。異性介助を嫌がる利用者には、同性で対応している。入浴を嫌がる利用者には、声かけ・タイミング等の工夫を行っている。一人ひとりさら湯で、気持ちよく入浴できるように配慮している。希望者には入浴剤も準備している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の様子を見ながら、必要に応じて日中でも臥床して頂けるようにしている。夜間のトイレ誘導等も安眠を優先し、個々に合わせたお声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録ファイルに、薬の種類、効能、副作用、注意事項等を職員が把握できるようにしている。状態に変化等があれば、主治医、訪問看護師に相談し、指示を仰げるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活習慣や趣味をできるだけ取り入れられるように努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温に左右されることなく、いつでも外へ出かけて頂けるように努めている。季節を体感して頂けるように、施設のイベント等も配慮し計画している。	公園・スーパー・喫茶店・文化センター等、近隣への外出が日常的にできるように努めている。車イス等の人も、移動に配慮して同様に外出できるように支援している。神社への初詣・「しあわせの村」での花見・「水族園」への遠足等、レク委員会が企画して、外出を楽しめるように取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の了解を得たうえで、対応させて頂いている。個々に合わせたお声かけ等で、安心感を持って頂けるように対応している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は、希望時に職員にお声かけ頂き、掛けて頂くようにしている。場合によってはかけてさしあげる。掛かってきた場合は必ずお取次している。お手紙は、ご本人にお渡ししている。</p>		
52	(23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間の飾りつけは、季節感や生活感に配慮したものを工夫している。</p>	<p>共用スペースは、クリスマスの飾り付等で季節を感じさせると共に、親しみやすく家庭的である。フロア内にキッチンがあり、食事準備の音や匂いから家庭的な雰囲気が感じられる。空気清浄機、加湿器等を設置し、快適な空調管理に配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでの座席、食事時の座席は気の合う方同士に配慮、優先している。完全に固定化はせず、その時々に合わせて対応している。</p>		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ今まで使われていた馴染みの物をご持参頂くようにしている。昔の写真やお箸、お茶碗も使い慣れたものを使わせて頂いている。	ベッドとクロゼット以外は、使い慣れた家具や家族の写真・人形など馴染みのものが持ち込まれ、その人らしく落ち着ける環境作りに努めている。持ち込みの少ない居室には、事業所がカレンダーや写真を飾る等、居心地よく過ごせるよう配慮している。安全面と生活習慣を考慮して、ベッドの代わりに床にマットが敷かれた居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレの表示はわかりやすい事を考え、目印になるようにそれぞれ違うイラスト等にしたり工夫している。		